

審判構成

- ✓判定については審判長および審判員で決定する。
- ✓審判長および審判員は同等の権限を持って判定にあたるが、最終決定は全て審判長の裁決による。

審判と勝敗

- ✓主審 1 名、副審 4 名(2 名)の合わせて 5 名(3 名)で判定を行い、主審同時上げとする。
- ✓勝敗は一本勝ち、技有り(2 回取った場合は一本となる)、判定勝ち、相手の失格ないし棄権により決定される。
(ドクターストップの場合もあり得る)
- ✓一本勝ち・失格・棄権がない場合は主審と副審の内、過半数の判定で決定する。
- ✓判定が定まらない場合は延長戦を行い、最終延長で必ず優劣を決定するマストシステムとする。
- ✓試合中、主審を中心とし審判員同士で協議を行うことができる。

判定基準

- ✓1 試合の全体を見て判定を行う。(1 回の判定ごとに区切りとする)
- ✓①技有りの有無、②減点の有無、③ダメージ、④技の的確性、⑤気迫の順とする。
※必ずしも手数足数がダメージに勝るものではない。



一本勝ち

- ✓反則箇所を除き相手に対して突き、蹴りなどによりダメージを与え、3 秒以上相手を倒した場合。
- ✓戦意喪失した場合。
- ✓技有りを 2 回取った場合。

技有り

- ✓反則箇所を除き相手に対して突き、蹴りなどによりダメージを与え、3 秒以内に立ち上がった場合。
- ✓反則箇所を除き相手に対して突き、蹴りなどによりダメージを与え、動きが止まった場合。
- ✓上段への蹴りが的確にクリーンヒットした場合。
- ✓前蹴りや下段蹴りなどで相手を倒し、タイミングよく下段突きをで決めた場合。
- ✓技を仕掛けた選手が転倒し、その相手選手がタイミングよく下段突きをで決めた場合。

反則

- ✓金的への攻撃、頭突き、掴み、抱えこみおよび掌低または拳、肩による押しは全て反則となる。
- ✓拳、肘など肩も含め腕部位による首を含めた顔面への攻撃。(上段ヒザは反則となる)
- ✓頭をつけての攻撃。前進ありきの体圧。(踏ん張って上体をのけぞらせる行為も体圧とする)
- ✓倒れた相手への攻撃。および背後からの攻撃。
- ✓掛け逃げ、故意による転倒と審判が見なした場合は注意を与える。
- ✓審判が消極的と判断した場合は注意を与える。
- ✓反則は注意 2 で減点 1 となり注意 4 で失格となる。但し、悪質と判断された場合は即失格も有り得る。

失格

- ✓減点が2となった場合。
- ✓係員や審判員の指示に従わない場合や粗暴な言動、悪質な態度、悪質な反則と見なされた場合。
- ✓規定外の道衣や防具を使用した場合。
- ✓時間に遅れ進行の妨げとなる場合、および出場しない場合。

選手の服装

- ✓清潔な白色または乳白色の空手衣(その流派の正装)を着用すること。
- ✓袖が無かったり極端に短く半袖のような空手衣は認めない。また、過度の装飾が施された空手衣も認めない。
- ✓女子のみTシャツ着用を認める。

試合時間

	初級クラス	中級クラス	上級クラス
本戦	1:00	1:30	1:30
延長	1:00	1:00	1:30
再延長	なし	なし	1:30(決勝のみ)

- ✓最終延長で勝敗を決めるマストシステムとする。
- ✓混合クラスの試合時間は上位のクラスに準じる。

防具

●主催者準備 ○着用義務 ×着用不可能 △着用任意(希望者のみ)

	幼年	小学3年未満		小学3年以上		中学	
		女子	男子	女子	男子	女子	男子
ヘッドガード ※注1	●	●	●	●	●	●	●
拳サポーター	○	○	○	○	○	○	○
すねサポーター	○	○	○	○	○	○	○
膝サポーター	△	△	△	○	○	○	○
ファールカップ アンダーガード	○	○	○	○	○	○	○
胸ガード	×	×	×	△	×	○	×

- ✓着用義務となる防具はヘッドガードを除き、全てを各自で用意すること。
- ✓ヘッドガードは主催者側が準備したものを着用すること。(主催者側で準備します)
- ✓拳サポーター、すねサポーター、膝サポーターは布製のものに限る。
- ✓サポーター類でパットが極端に薄くなっているもの、改造したものは使用を禁止する。
- ✓ファールカップ、アンダーガードは道着の下に着用すること。
- ✓女子の胸ガードはイサミ製 D-16、L-711、TT-28、MW 製 CG32、または同等の物。
みぞおちにかかるもの及びプラスチック製は禁止。(L-8202、L-8303 の様な腹部にかかるものは不可)

※注1 上級クラスのヘッドガード着用は任意となり着用の場合でも面無しとなります。
また、上級クラスの決勝戦はヘッドガードを着用しません。

補則

- ✓上段ヒザ蹴りは全て反則とする。(故意でない場合でも反則となる)
- ✓このルール案内に無い事態が発生した場合は、必要に応じ役員が協議を行い審判長が最終決定をする。
- ✓協議結果や試合結果に対しての意義申し立ては一切認めない。